

2026

紙パックリサイクル 年次報告書



Paper Carton Recycling
Annual Report



捨てるより **リサイクル** が
気持ちいい。



全国牛乳容器環境協議会

発行にあたって

日頃より全国牛乳容器環境協議会(容環協)の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

2026年を迎え、私たちを取り巻く環境は依然として不透明な状況が続いています。気候変動による異常気象や酪農乳業への影響、資源価格の高騰、消費者行動の変化など、持続可能な社会の実現に向けた課題は多岐にわたります。一方で、環境意識の高まりとともに、紙パックリサイクルの重要性に対する社会的な認識も着実に広がりつつあります。

容環協では、2021年度より推進してきた「プラン2025／飲料用紙パックリサイクル行動計画」に基づき、紙パック回収率50%の達成を目指して活動を継続してきました。2025年度は本計画の最終年度にあたり、これまでの取組みの成果を振り返り、客観的な検証を行う重要な年です。各地での取組みが着実に成果を上げていることを実感しています。

「プラン2025」では、

- ①紙パックリサイクルの現状把握、ステークホルダーとのコミュニケーション
 - ②回収率向上のための啓発
 - ③紙パックの回収・再生インフラの整備支援
 - ④次世代を担う子どもたちの環境マインド向上
 - ⑤活動への理解促進、活動の公表と評価
- の5つの柱を掲げ、持続可能な社会づくりへの貢献を目指してきました。2025年度は、これらの活動を継続・強化するとともに、成果の見える化と社会への発信を重視しています。

昨年度に続き2025年度も、容環協ホームページやSNSの活用、自治体の有料ごみ袋への広告掲載などを通じて、紙パックの特長や回収の必要性、正しいリサイクル方法の浸透を図りました。また、一般社団法人日本サステナブル・レストラン協会との連携により、業務用チャネルでも紙パックの再資源化に取組みました。小中学校への出前授業や自治体イベントへの出展では、体験型の実習を通じて、子どもたちの環境意識の醸成を図る活動も継続しています。12月にはSDGs Week EXPO 2025／エコプロ2025に出展し、工作コンクール「牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール」の入賞作品を展示するなど、広く社会への発信を行いました。

紙パックは、針葉樹パルプを主体とした強度の高い紙と、内外面にラミネートされたポリエチレン等の樹脂から成る複合素材であり、適切に回収・分離することで、さまざまな製品へとリサイクル可能な「資源」です。製造過程で発生する損紙や古紙を含めても回収率は4割程度、製品として出荷された容器包装に限れば3割程度にとどまっており、さらなる改善が求められています。このことをステークホルダー、特に生活者や外食事業者の皆さんに伝え、回収率の向上とリサイクルシステムの構築につなげていきたいと考えています。



全国牛乳容器環境協議会

会長

柳田 恭彦

現在、次期計画として「プラン2030」の策定を進めています。プラン2025の成果を踏まえ、紙パックの資源循環を中長期的な視点で捉え、より多くのステークホルダーと協働する体制づくりを目指すものです。持続可能な社会の構築に向けて、紙パックリサイクルの価値をさらに高めるための新たな行動指針として、今後の展開にご期待いただければ幸いです。

紙パックのリサイクルは、誰もが日常生活の中で手軽に取組めるサステナビリティ活動のひとつです。その価値を社会全体で共有し、回収・再生の仕組みをより身近なものとして定着させることができ、持続可能な社会の実現に向けた大きな一歩となります。容環協は、今後も多様な主体との連携を深めながら、紙パックの資源循環を通じて社会的価値の創出に努めて参ります。

本報告書では、2025年度の活動内容を総括するとともに、今後の方向性についてもご紹介しています。ぜひ一読いただき、ご意見をお寄せいただければ幸いです。皆さまからの声が、紙パック回収率の向上、リサイクルの推進、資源の有効活用といった社会課題の解決につながるものと確信しております。

紙パックの資源循環は、紙パック飲料をご利用いただいている生活者の皆さん、回収や再生、製造や流通に携わる事業者の皆さん、そして自治体や教育機関など多くの関係者の協力によって成り立っています。今後とも、紙パック回収とリサイクルへのご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

2026年1月

プラン2025 飲料用紙パック リサイクル行動計画

紙パックを通じて持続可能な社会づくりに貢献する

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



回収率目標
50%

紙パックリサイクルの現状把握、
ステークホルダーとのコミュニケーション

回収率向上のための啓発

紙パックの回収・
再生インフラの整備支援

次世代を担う子どもたちの
環境マインド向上

活動への理解促進、活動の公表と評価

CONTENTS

プラン2025 飲料用紙パック
リサイクル行動計画 ①

活動トピックス

- 「プラン2025」5年目の取組状況 ②
- 「プラン2030」の策定 ③
- リサイクル促進意見交換会 ④
- 飲料用紙パックリサイクルの調査 ⑤
- 広告・啓発活動／業務用分野の取組み ⑥
- 牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール／エコプロ2025 ⑦
- 紙パックリサイクル講習会／イベント・出展 ⑧
- 牛乳パックリサイクル出前授業 ⑨

活動報告ダイジェスト

- 2024年度 紙パック回収率 ⑩
- 2024年度 紙パックマテリアルフロー ⑫

2025年度状況報告

小売事業者のリサイクル状況	14
福祉施設のリサイクル状況	15
市町村回収・集団回収の状況	16
学校のリサイクル状況	18
製紙メーカーのリサイクル状況	19

紙パックのリサイクル学

ループ 紙パックを取り巻くダブル循環	20
-----------------------	----

全国牛乳容器環境協議会の概要

あゆみ	22
容環協の発行物	24
会員一覧	25

「プラン2025」5年目の取組状況

「プラン2025」 飲料用紙パックリサイクル 行動計画

容環協では、乳業メーカーと飲料用紙容器メーカーの会員企業から選出された専門委員によって、「総務」「広報」「イベント」「支部組織」の4つの委員会を組織し、それぞれ月に1回以上の会議を開き、さまざまな課題を検討しています。また、各委員会の委員長らで構成する「企画運営委員会」を毎月開催し、組織横断的な情報共有と活動の進捗確認を行っています。プラン2025で設定した5つの行動体系それぞれについて、2025年の活動概況は以下の通りです。

(1)紙パックリサイクルの現状把握、ステークホルダーとのコミュニケーション

飲料用紙容器(紙パック)を資源として有効利用するための分別回収を支えるには、消費者による分別排出が欠かせません。容環協ではその状況を確認するため、消費者から回収した資源物(雑がみ、紙パック)を組成分析することで、雑がみに混入する紙パックの比率や、回収された紙パックに混じった夾雑物の内容や割合を調査しています。また、消費者の意識変化、行動変容が起こっているか評価するため、関東地方1都6県の消費者を対象としたインターネット意識調査を継続して実施しています。また、郵送アンケートにより、飲料用紙容器リサイクルの現状と動向に関する基本調査、古紙業者の紙パック取扱い意向調査を実施し、我が国における紙パックのリサイクル率や回収インフラの状況を確認しています。また、進んだリサイクル活動を行う自治体や学校に赴いてインタビュー調査を行い、水平展開につながるベストプラクティスを収集・発信しています。

現状把握のための各種調査に加え、会員企業を始めとしたステークホルダーとの意見交換を行い、古紙リサイクルに関わる事業環境の変化や、紙パックリサイクルにおける潜在的な課題を見逃さないように注視しています。

(2)回収率向上のための啓発

プラン2025の取組みで始めたWebを活用したタイアップ広告は第12弾を数え、継続して容環協サイトへの誘導につなげています。牛乳パックン探検隊Webサイトの刷新では、調べ学習を想定したコンテンツを拡充しました。総合環境展であるエコプロ2025ではパネルと動画を使ったブースを設け、また冊子や紙パックの再生品を配布して啓発に

取り組みました。食育をテーマにしたイベントでは、市町村が主催するものだけでなく県や民間が主催するものにも参加し、紙パックの特長と分別回収の意義、リサイクルの必要性などを訴えました。地元企業が紙パックを資源としてビジネスに取り組んでいることをお伝えし、来場者の“自分ごと化”を促しました。

一般社団法人日本サステナブル・レストラン協会と連携した取組みでは、飲食店の店頭に回収ボックスを設置する取組みを複数の地域で実施きました。

Webサイト等から申込みを受け付けて紙パック回収ボックスや啓発資料を無償配布したり、自治体の指定有料ごみ袋に啓発広告を掲載したりする活動も継続しています。広告出稿をきっかけにして、市民の皆さんと意見交換する機会も得られました。

(3)紙パックの回収・再生インフラの整備支援

飲料用紙容器の回収に使える牛乳パック型の回収ボックスを継続して無償配布しており、2024年12月～2025年11月の実績で291個を配布しました。エコプロ2024で初披露した新デザイン回収ボックスを2025年1月から配布しています。

地域ごとの回収力分析調査によって各地域や自治体が抱える課題を捉えると共に、全国製紙原料商工組合連合会(全原連)にご協力をいただき、市区町村別の紙パックの回収区分や紙パックを古紙回収する業者の情報を調査し「古紙原料問屋調査報告書」をまとめています。

(4)次世代を担う子どもたちの環境マインド向上

紙パックは漂白された長繊維のバージンパルプから作られており、分別してリサイクルすることで有用な紙資源として活用できることを伝えるため、各地の小中学校に赴き出前授業を行っています。

「牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール」に今年も協賛し、審査や表彰に参加しました。全国から2,458作品の応募があり、受賞作7点をエコプロ2025で展示しました。

(5)活動への理解促進、活動の公表と評価

毎年の活動状況を自ら振り返り、また消費者を含むステークホルダーの皆様にお知らせするため、年次報告書を毎年、発行しています。Webサイトでは年次報告書だけでなく、各種啓発資料のPDFや、直近に実施された出前授業・イベントの記録を公開しています。

毎年4月に開催される総会においては、前年の活動を振り返って評価を行い、改善を図って当年の活動計画を立てています。

「プラン2030」の策定

「プラン2030」 飲料用紙パックリサイクル 行動計画の検討

40%台に落ち込んだものの、依然として3分野で最も回収率が高い分野です。コロナ禍により一時的にリサイクル活動を停止した学校もありましたが、再開する動きが見られ、回収率の牽引役として引き続き啓発・支援をしていく分野です。また、リサイクルの習慣を身につけることで、成長して社会人となり家庭や職場で紙パックリサイクルを続けることが期待できるため、啓発活動には将来投資としての意味合いもあります。

C)業務用：紙パック飲料の利用や使用済紙パックの回収に関する状況把握が難しく、なかなか働きかけが進まなかった分野でした。プラン2025の取組みを通じ、地域の商工会議所・商店街を介した連携や、大規模店舗のテナントどうしの協力などを活かし、紙パックリサイクルの取組みを大きく進展させた事業者もありました。取組みの水平展開や新たなチャレンジを行うことで、回収率の大幅な向上が期待できます。

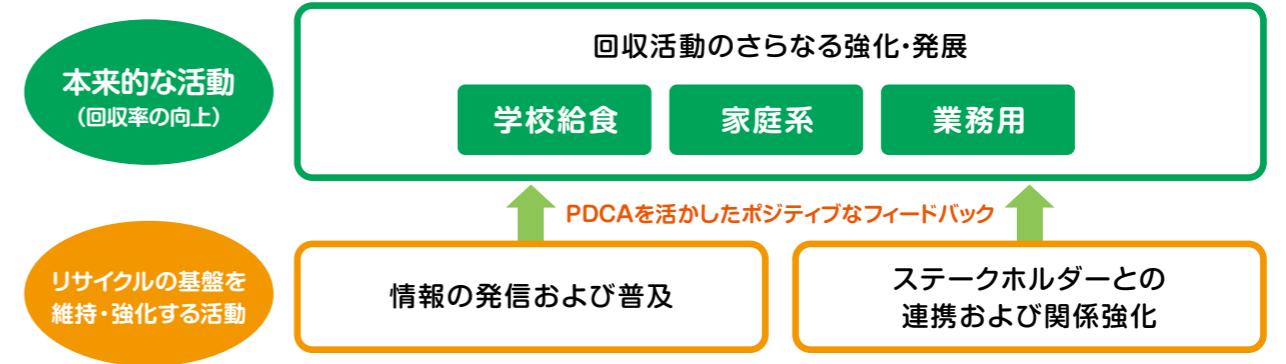
(2)情報の発信および普及

紙パックのリサイクルは、各地域の古紙回収・流通のネットワークを活用して行われているため、地域により回収の場所・方法が必ずしも一定していません。各地の事情に応じて経済合理的な方法でリサイクルされている面もありますが、消費者にとっては「わかりにくさ」の要因にもなっています。これらの是正に取り組みます。

(3)ステークホルダーとの連携および関係強化

紙パックのリサイクルは、制度を作り回収の一部を担う行政・自治体、紙パック飲料の販売に加えて使用済紙パックを回収する小売事業者、紙パックを別の紙製品に生まれ変わらせる再生紙メーカー、回収された資源を再生紙メーカーの求める仕様に合わせて納める古紙問屋などからなるネットワークによって支えられています。そのほかにも紙パック飲料を製造する飲料メーカー、業界団体が連携して成り立っている紙パックリサイクルシステムを維持するとともに時代の変化に適合させ、より効率的に運用できるような働きかけを続けています。

プラン2030の概要(案)



リサイクル促進意見交換会

関係団体が多数集い、
リサイクルの現状と課題を
話し合う貴重な場に。

【第37回飲料用紙パックリサイクル促進意見交換会】

2025年2月18日、農林水産省食品口ス・リサイクル対策室、同牛乳乳製品課、経済産業省素材産業課、同資源循環経済課、環境省リサイクル推進室、自治体、市民団体、古紙回収業者、製紙メーカー、流通事業者、乳業メーカー、飲料用紙容器メーカーなど約60名参加のもと、Web会議にて開催しました。

最初に容環協の伊藤常務理事から、紙パックリサイクルは1984年に山梨県の主婦の「もったいない」という呼びかけで始まり、「洗って、開いて、乾かして」の日本独自の回収システムとなり、今後も守っていきたいシステムの一つであること、2023年度実績では回収率が上昇に転じたのでさらに対策を講じていきたいとの挨拶がありました。三省からは本意見交換会への期待のことばをいただきました。

次に取組状況報告として容環協から、組織構成と活動テーマ概要を説明し、中期行動計画「プラン2025」の活動状況を報告しました。

調査会社からは、2023年度の回収率調査結果の詳細内容として、飲料用紙パックの回収率は38.8%、使用済紙パックの回収率は29.8%とそれぞれ前年度比0.1ポイントと0.4ポイント上昇し、他の古紙として回収され紙パックとして分別されたものを分子に加え、まな板などに再活用されたものを分母から引くと、それぞれ41.5%、32.2%と試算される



容環協事務局より活動経過を報告

こと、店頭回収が減少し集団回収は下げ止まってきたこと、特に学校でのリサイクルは前年度比3.7ポイント上昇したことなどの説明がありました。

自治体が進めた特徴ある取組みとして、相模原市からは学校給食用牛乳パック(学乳パック)リサイクル再開の取組み、座間市からは古紙リサイクル総量を増やす取組みについて、それぞれ報告していただきました。取組内容の一部は、容環協年次報告書2025に掲載しています。

後半の意見交換では、紙パックの回収に関する課題や成功事例が共有されました。学乳パックの回収率が上向いていた状況やさらなる対策などが報告されました。店頭回収では、アルミ付き紙容器と未晒し(漂白していない茶色の)原紙を使用した紙容器の回収における課題について意見交換しました。

資源循環への対応が求められる中で紙パック回収率50%の目標達成に向けてステークホルダー間のコミュニケーションがよりいっそう重要と認識しました。

【紙パックリサイクル促進地域会議in関西】

2025年2月14日に大阪市総合生涯学習センターにて市民団体、古紙回収業者、製紙メーカー、流通事業者、乳業メーカー、飲料用紙容器メーカーなど約40名参加のもとWeb会議との併用で開催しました。関西地区で課題となっているアルミ付きと未晒し原紙使用紙容器の回収についての情報交換を行いました。



市民団体及び事務局の参加者

【製紙メーカー意見交換会】

2025年7月8日に静岡県富士市のふじさんめっせ会議室にて紙パックをリサイクル活用している製紙メーカーや古紙回収業者などを招いて約25名参加のもとWeb会議との併用で開催しました。学乳パックの回収再開に向けた動向とアルミ付き紙容器の回収について情報共有を図りました。

飲料用紙パックリサイクルの調査

紙パック回収率の
実態把握や向上策検討に
つながる各種調査を行っています。

【2025年 組成分析調査】

コロナ禍により一時中断していた組成分析調査を2023年より再開し、2025年は名古屋市(3月)、松江市(5月)、富士市(6月)、静岡市(10月)、野田市(12月)、の5か所で実施しました。

これら一連の組成分析調査は、古紙問屋に回収された「古紙・雑がみ」と呼ばれる再資源物の中に、飲料用紙容器(紙パック)がどの程度の割合で混入しているかを定量的に把握することを目的としました。これにより、古紙リサイクルの品質向上および分別効率化に向けた現状分析と課題特定につなげたいと考えています。

紙パックは、その繊維が良質であるため、トイレットペーパーなどの再生紙製品の原料として高く評価されています。しかし、一般の古紙回収ルートに混入した場合、その分別が不十分であると、再生紙の品質低下やリサイクル工程における負荷増大を招く可能性があります。現状の古紙回収システムにおける紙パックの混入実態を把握することは、より効果的な分別啓発活動や回収システムの改善策を検討する上で不可欠な基礎調査です。これにより、住民への具体的な分別啓発施策の企画、古紙回収業者へのフィードバックと分別精度の向上提案、リサイクル工場における選別工程の最適化検討などへの効果が期待されます。

容環協では古紙問屋、印刷工業会液体力トナ部会、紙製容器包装リサイクル推進協議会と定期的な連携を取り、引き続き分析調査へ参画してまいります。



松江市組成分析調査

【2025年 飲料用紙パックのリサイクル行動調査】

プラン2025より実施している飲料用紙パックのリサイクル行動調査は、今回で4回目となり生活者の紙パックリサイクルに対する行動傾向を把握する重要な現状分析データとなっています。今年度も関東の1都6県(東京、神奈川、埼玉、千葉、茨城、栃木、群馬)に絞り込み、15~79歳の男女計1,500人を対象に調査を行いました。

本調査の結果、紙パックをリサイクルしている比率は約71%で推移しており、大きな変動は見られませんでした。しかし、「リサイクルしたいがやり方を知らない」という層も一定数存在し、特に若年層ではその傾向が顕著です。

年代別では、20代が「リサイクルできることを知らない」比率が高い一方で、「リサイクルを周りにも推奨している」意識も高く、リサイクルへの潜在的な意欲がうかがえます。このことから、若年層は適切な情報提供や働きかけによって、リサイクル行動を促進できる大きなポテンシャルを秘めていると言えます。

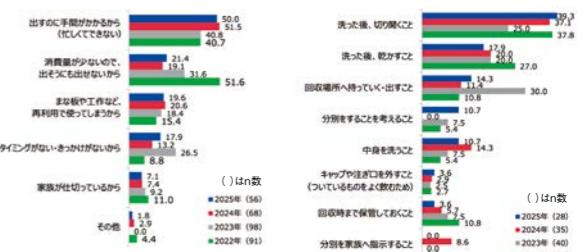
リサイクルを阻害する要因としては、「手間がかかる(忙しくてできない)」が引き続き上位を占めています。特に「洗って切り開く」「乾かす」といった作業、「回収場所にもっていく」事にハードルを感じる人が多いことが示されました。

これらの結果から、今後は若年層に特化したきめ細かな啓発活動や、リサイクル工程の手間を軽減する工夫、そして回収システムの検討が、リサイクル率向上に向けた重要な施策になるとを考えられます。特に、若年層の接触媒体を活用した情報発信や、リサイクル行動への動機付けとなる具体的なメリットの提示が効果的と考えられます。

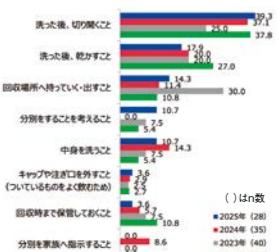
紙パックリサイクル状況(年代別・男女別)



リサイクルに出さない理由



最も手間がかかるもの



広告・啓発活動／業務用分野の取組み

WebやSNSを活用した
タイアップ広告、自治体のごみ袋
広告を使って啓発しました。

WebやSNSを活用したタイアップ広告を継続しています。2022年からの計12回で、Web広告の累計ページビュー(PV)は約190万PVあり、Web広告からの容環協HPへの来訪数も伸びています。1月(第11弾)には「牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール2024」入賞作品、4月(第12弾)には分別排出することの大切さを取り上げました。



2019年から、各自治体が指定している「可燃ごみ袋」に「紙パックは捨てずにリサイクル」のメッセージを掲載し、紙パックを可燃ごみではなく資源として排出するよう、住民に啓発する取組みを進めています。2025年度は、東京都羽村市、東京都八王子市、東京都三鷹市、神奈川県茅ヶ崎市、神奈川県逗子市、愛知県犬山市、北海道帯広市の7市で広告を掲載しました。ごみ袋の購入時や使用時に容環協のメッセージを確認頂けるものと思います。



SRAジャパンとの取組み

容環協は主に飲食店における業務用領域での紙パック回収について、2025年度も一般社団法人日本サステナブル・レストラン協会(SRAジャパン)と連携した取組みを継続しています。活動の中心となるのが、今年度で4年目となる「FOOD MADE GOOD紙パック50アクション」キャンペーンです。このキャンペーンは、飲食店における紙パックの回収啓発と回収量向上を目的とし、回収ルートの設定と定着を目指した実証実験です。今年度は8月1日から9月30日のうちの1ヶ月間、全国で9か所のエリアが参加して行われました。



SRAジャパンインスタグラムでの紹介



FOOD MADE GOOD Japan Awards 2025 BESTリサイクル賞の授与

11月17日には、SRAジャパンが主催する、レストランのサステナブルな活動を表彰する式典である「FOOD MADE GOOD Japan Awards 2025」が開催され、容環協が「BESTリサイクル賞」のスポンサーとしてプレジンターを務めました。キャンペーン参加エリアから厚木、神戸、那須塩原・宇都宮、大阪・阿倍野エリアがファイナリストに選出され、もっとも地域連携を進めることができた厚木エリアが、2度目の「BESTリサイクル賞」の栄冠に輝きました。

容環協では引き続き、業務用領域における紙パック回収率向上に向けて、取組みを行います。

牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール エコプロ2025

第25回 牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール 表彰式 2025年12月27日

25回目となる「牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール」が開催され、全国の小学校より2,458作品の応募がありました。いずれも力作ぞろいの中、厳正な審査の結果、受賞7作品が選ばれました。入賞された皆様、おめでとうございます。

最優秀賞は「永資月鳥(えいしげっちょう)」。細く切った紙パックを編み込み胴体部の細かな羽毛を表現したり、ラミネートをはがして毛羽立たせた紙で翼の大きな羽毛を表現したり、同じ羽毛でも異なるニュアンスが表現されています。不死鳥からインスピレーションを受けた作品のタイトルには、資源が繰り返しリサイクルされるイメージから「永資月鳥」と造語を当てました。

表彰式は東京駅近くの会場にて開催され、審査委員長の東京国立博物館・藤原館長、実行委員長の容環協・柳田会長をはじめ、審査委員の方々から受賞者に賞状・トロフィー・副賞が贈られました。

受賞作品は容環協の「牛乳パッケン探検隊」ホームページで紹介されています。



最優秀賞「永資月鳥」



表彰式のようす

SDGs Week EXPO 2025／エコプロ2025 2025年12月10日-12日

東京ビッグサイトで開催された本展に出展しました。小・中学生に紙パックの特徴、紙パッケージの意義と環境への貢献、リサイクルのルール、森林管理、リサイクル工場のようすを楽しく学んでもらえるようにしました。前年好評だったスタンプラリーを踏襲し、スタンプラリーに参加した小学生には再生紙でできた景品をプレゼントしました。「牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール」受賞作品を展示しました。来場された方々から感嘆の声が上がっていました。

エコプロ2025の累計来場者数は前年より少ない59,873名でしたが、容環協ブースには前年より多い約3,600名の方が足を運んでくださいました。

今回の展示を通じて、「紙パックのリサイクルが、身近で手軽に出来る地球にやさしい取組みであること」を多くの方々に訴求することができました。



パネルを使った説明

盛況だった容環協ブース

紙パックリサイクル講習会／イベント・出展

全国イベントでの意見交換や
自治体イベントでの啓発活動を
実施しました。

【京阪百貨店 SDGs 食育フェスタ】2025年5月25日

【京阪百貨店 もったいないやんEXPO】2025年7月20日、21日

京阪百貨店守口店で開催された「SDGs 食育フェスタ」と「もったいないやんEXPO」に出展しました。容環協ではパネルを使って、買い物客の皆様に紙パックのリサイクルについて啓発しました。来場された方から「買い物に行った時、回収ボックスに入れている」「分別排出していたが、何にリサイクルされているか知らなかった」など、たくさんの声をいただきました。また、紙パックの見本を使って注ぎ口付きパックもリサイクルできることなど、来場者と意見交換ができました。



SDGs 食育フェスタ



もったいないやんEXPO

【食育推進全国大会 in Tokushima】2025年6月7日、8日

アスティとくしまで開催された第20回食育推進全国大会 in Tokushimaに、日本乳業協会と合同のブースで出展しました。容環協では、紙パックがトイレットペーパーやティッシュペーパー、板紙などにリサイクルされることをパネルを使って説明しました。食育の啓発では、地元の農家さんや漁師さんを応援してください、と地産地消をお勧めしています。徳島県では日誠産業が紙パックを原料とした再生パルプを作っています。「県内で紙パックをリサイクルすると、地元企業の応援になりますよ」と解説すると皆さん驚いていました。



アスティとくしま(会場)



日本乳業協会と合同のブース

【むさしのエコreゾートワークショップ】2025年8月9日

武藏野市「むさしのエコreゾート」で、「牛乳紙パックで作る手しきはがき」のワークショップを行いました。動画視聴の後、参加者全員で予め熱水に浸漬し軟らかくなった紙パックから印刷されたポリエチレンフィルムをはがし、取り出した紙を細かくちぎり、ミキサーで水を加えて攪拌してパルプ液を作成しました。紙パックから真っ白なパルプ液ができるところを歓声とともに、熱心に観察してもらいました。作成したパルプ液を加えた混合液からパルプをすき網でくい上げた後、水分を取り除いてはがきになる工程を体験してもらい、完成したはがきを手にした児童は、大変喜んでいました。手しきはがきの待ち時間には、ぬり絵に取り組んでもらい、紙パックが貴重な資源であることを理解していただきました。



紙をたくさんちぎる



紙をミキサーにかけてパルプ液を作る



パルプ液を桶に注ぐ

紙をすく

その他 紙パックリサイクル講習会／イベント・出展

【第25回 こどもまつり】2025年3月2日

【第13回 アトムフェスタ】2025年11月2日
(新宿リサイクル活動センター)

【第4回 CHEER FAMILY ★フェスタ★】
2025年3月15日(大阪府柏原市役所前河川敷)

【こどもエコクラブ全国フェスティバル2025】
2025年3月23日(大阪府咲洲庁舎)

【2025 八王子環境フェスティバル】
2025年6月15日(東京たま未来メッセ・えきまえテラス)

【令和7年度 野田市環境フェア】
2025年10月18日(野田市役所1階ロビー)

【ひょうごSDGsフェスタ】
2025年10月25日(神戸国際展示場)

【紙パックリサイクルセミナー】
2025年11月7日(逗子市役所)

牛乳パックリサイクル出前授業

出前授業の実施例(学校の要望や授業時間により調整)

・講義 「3Rについて」「牛乳パックをリサイクルする手順や利点」

・動画視聴 「牛乳パック探検隊」

「学校給食牛乳パックのリサイクル事例」

・体験学習 「牛乳パックで紙しき」「3層からなる紙パック」

「紙パックの手開き」

協働実施団体(川崎市でのコラボレーション)

・3R推進プロジェクト(市民団体)

・グリーンコンシューマグループかわさき(市民団体)

・川崎市環境局(減量推進課)

【大阪府 大阪市立関目東小学校】2025年10月6日

「(紙パックが)いろいろなものにリサイクルされるのがわかり勉強になった」「リサイクルの大切さがわかりました」「今までではなく捨てていたけれど、リサイクルしようと思った」という感想をもらいました。「帰ったらおうちの人人にリサイクルの話を聞いたことを伝えてくださいね」とお願いして締めくくると、授業の最後にはまた、元気に「ありがとうございました」と声を響かせてくれました。

(小学校 4年生3クラス106名受講)



紙パックは四角い紙を貼り合わせて作られます

【神奈川県 川崎市立宮崎小学校】2024年12月12日

【神奈川県 川崎市立大谷戸小学校】2025年1月20日

【神奈川県 川崎市立小田小学校】2025年7月14日

紙パックリサイクルの意義や川崎市の廃棄物削減の取組み、現状を説明し、「紙パックが燃やされているのにびっくりした」「牛乳パックのリサイクルが温暖化防止に貢献できるのがわかった」「リサイクルしようと思います」などの感想を聞くことができました。チップや再生パルプ、ポリエチレンなどのサンプルを手にとって見てもらうと、興味津々でした。

(宮崎小学校 5年生6クラス194名受講)

(大谷戸小学校 5年生5クラス165名受講)

(小田小学校 4年生3クラス89名受講)



市民団体のお話

【大阪府 泉佐野市立佐野台小学校 留守家庭児童会】
2025年8月18日

「リサイクルありがとう」の言葉が家にある飲料や学校給食牛乳の紙パックにも書かれていることを伝えると、「知らないかった」「確認してみる」との反応がありました。

(学童保育児童 29名受講)



スライドをみて真剣に聞くようす

【大阪府 和泉市立伯太小学校】2025年10月7日

紙パックリサイクルは主に保護者がやるものと思っており、自宅で実際にリサイクル作業をしている児童は少なかったものの、授業後の感想では「紙パックのリサイクルは環境に良いことがわかったので、これからやっていきたい」との声も聞かれました。「木材は無駄なく利用されることや「資源循環の大切さ」についても長く記憶に留めてほしいと感じました。

(小学校 6年生3クラス93名受講)



紙を作ることで木を無駄なく使うことをお話ししました

2024年度 紙パック回収率



牛乳パックのリサイクルは
「洗って、開いて、乾かして」



2024年度の紙パック回収率は
38.9%でした。

市町村回収や
集団回収の紙パック取引価格が
上昇しています。

紙パックリサイクルに関する情報を関係者や社会に提供するため、1995年から実施している「飲料用紙容器リサイクルの現状と動向に関する基本調査」が、2025年も6月～10月に実施され、2024年度のリサイクル状況が明らかになりました。

2024年度の紙パック全体の回収率は38.9%（前年度から0.1ポイント上昇）、使用済紙パック回収率は30.1%（前年度から0.3ポイント上昇）となりました。

なお、紙パックとしてではなく、他の古紙として回収された後に紙パックとして選別されてリサイクルされていても回収量に計上されていないものがあり、この推計回収量を含めると、紙パック回収率は39.6%、使用済紙パック回収率は31.0%となります。

※2024年度実態調査では、紙パックメーカー8社・飲料メーカー248社・市区町村1,741・小学校1,882・スーパーマーケット等1,051・市民団体および福祉施設20・製紙メーカー22社等をアンケート調査対象とし、あわせてヒアリング調査を実施しました。

※「産業損紙・古紙」とは、紙パック製造工場や飲料工場で発生した損紙や古紙をいいます。

※「損紙」とは紙パック製造工場や飲料工場で飲料充填前に発生した端材などを、「古紙」とは飲料充填後に発生した紙パックをいいます。また、「使用済紙パック」とは、家庭、学校、店舗、事業所などで飲み終わった紙パックを指します。

2024年度の紙パック回収率

紙パック回収率（産業損紙・古紙を含む）

38.9%

(2023年度 38.8%)

=国内紙パック回収量÷紙パック原紙使用量
=76.1千トン / 195.3千トン

使用済紙パック回収率（使用された紙パック）

30.1%

(2023年度 29.8%)

=使用済紙パック回収量÷飲料メーカー紙パック出荷量
=51.1千トン / 169.4千トン

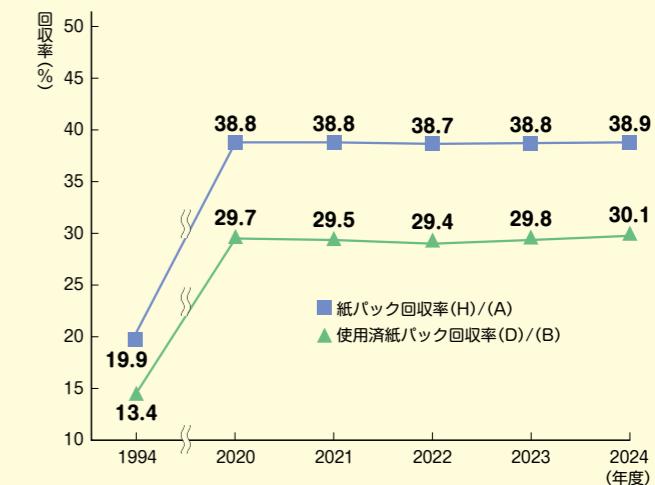
参考 他の古紙への混入や再活用を反映した回収率

使用済紙パックのうち、他の古紙として回収され、紙パックとして選別・資源化されながらも回収量に計上されていないものが約1.4千トン、使用済紙パックのうち、まだ板などに再活用された後に廃棄されるものが約9.1千トンあると推計されています。前者を分子に加え、後者を分母から控除したときの回収率は次のようになります。

紙パック回収率=41.6%、使用済紙パック回収率=32.7%

2024年度の紙パック回収量は
76.1千トンでした。

紙パック回収率の推移



国内紙パックの回収率は、右の図のように推移しています。回収量と回収率の詳細は下の表のとおりです。

2024年度の国内紙パック回収量は76.1千トンで、前年度より2.1千トン(2.6%)減少しました。紙パックメーカーの損紙など、産業損紙・古紙の回収量は前年度から1.0千トン減少しました。使用済紙パック回収量は、家庭系、事業系ともに減少し、全体では前年度から1.1千トン減少しています。原紙使用量の減少率より国内紙パック回収量の減少率のほうがやや小さかったことから、紙パック回収率は前年度より0.1ポイント上昇しました。また、紙パック出荷量の減少率より使用済紙パック回収量の減少率のほうが小さかったことから、使用済紙パック回収率は前年度より0.3ポイント上昇しました。

主要データの推移 (単位:千トン)

区分	1994	2020	2021	2022	2023	2024	対前年度
飲料用紙パック原紙使用量(A)	216.0	216.9	211.2	208.5	201.3	195.3	-2.9%
紙パックメーカー産業損紙発生量	16.5	26.4	26.2	25.4	24.5	23.9	-2.5%
飲料メーカー産業損紙等発生量	—	1.9	1.9	2.3	1.8	2.1	+19.1%
飲料メーカー飲料用紙パック出荷量(B)	197.9	188.7	183.1	180.8	175.0	169.4	-3.2%
家庭系(C)	168.7	167.8	160.9	158.0	152.0	145.8	-4.0%
事業系出荷量	29.2	20.9	22.2	22.8	23.0	23.5	+2.2%
学校給食	10.7	11.9	13.1	13.3	13.4	13.3	-0.9%
飲食店等	18.5	9.0	9.1	9.4	9.6	10.2	+6.4%
使用済紙パック回収量(D)=(E)+(F)	26.5	56.1	54.1	53.2	52.1	51.1	-2.0%
家庭系(E)	25.9	48.5	46.8	45.6	44.3	43.2	-2.4%
店頭回収	13.8	27.5	26.5	25.6	24.7	23.7	-4.2%
市町村回収	4.3	10.6	10.3	10.0	9.7	9.8	+0.3%
集団回収等	7.8	10.3	9.9	10.0	9.8	9.8	-0.6%
市町村登録団体等	7.8	5.6	5.4	5.3	4.8	4.3	-11.7%
古紙原料問屋による独自回収等	—	4.7	4.5	4.6	5.0	5.5	+10.2%
事業系(F)	0.6	7.6	7.3	7.6	7.8	7.8	-0.0%
学校給食	0.6	5.7	5.5	5.8	6.4	6.1	-4.1%
飲食店等	—	2.0	1.8	1.8	1.5	1.7	+17.7%
産業損紙・古紙紙パック回収量(G)	16.5	28.0	27.9	27.5	26.0	25.0	-3.7%
紙パックメーカー	16.5	26.4	26.2	25.4	24.5	23.6	-3.5%
飲料メーカー	—	1.6	1.7	2.1	1.5	1.4	-7.1%
国内紙パック回収量(H)=(D)+(G)	43.0	84.1	82.0	80.6	78.1	76.1	-2.6%
紙パック古紙輸入量	—	13.1	12.0	12.8	10.8	14.3	+32.6%
紙パック総受入量	43.0	97.2	94.1	93.5	88.9	90.3	+1.7%
紙パック再資源化量	30.1	75.5	75.2	75.4	71.7	72.7	+1.5%
紙パック回収率(H)/(A)	19.9%	38.8%	38.8%	38.7%	38.8%	38.9%	+0.1ポイント
使用済紙パック回収率(D)/(B)	13.4%	29.7%	29.5%	29.4%	29.8%	30.1%	+0.3ポイント
家庭系使用済紙パック回収率(E)/(C)	15.4%	28.9%	29.1%	28.8%	29.1%	29.6%	+0.5ポイント

*紙パック再資源化量=紙パック総受入量×歩留。歩留は、2001年度以降についてはアンケートにより求めています。

*1994年度の産業損紙発生量にはアルミ付き紙パックを含みます。

*100トン未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。また、同じ理由により表中の数値から回収率や前年度比を計算すると合わない箇所があります。

2024年度 紙パックマテリアルフロー



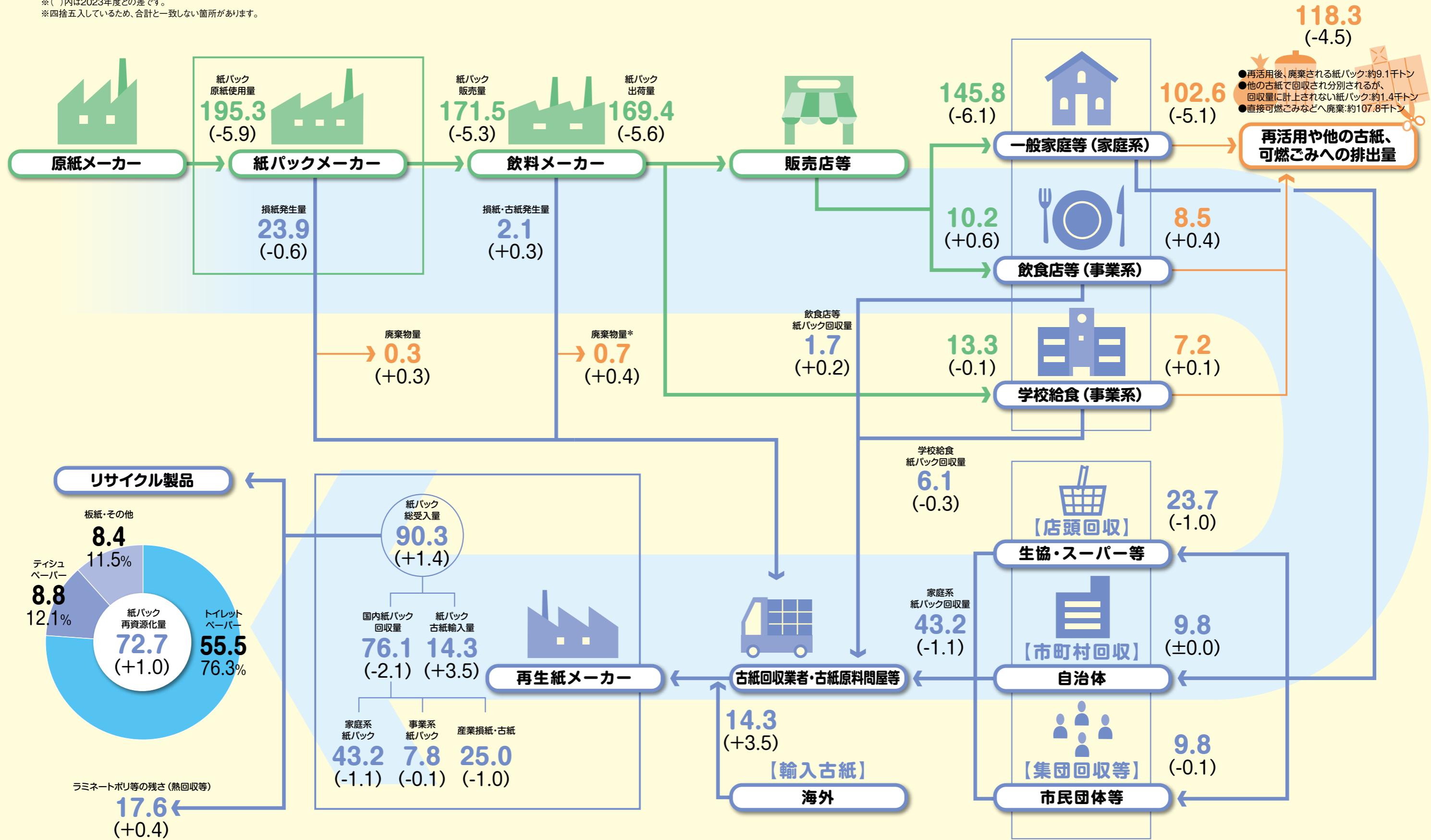
牛乳パックをリサイクルすると
CO₂が削減できます

2024年度の紙パックリサイクルの全体像をマテリアルフローで示したものです。

*単位：千トン

※()内は2023年度との差です。

※四捨五入しているため、合計と一致しない箇所があります。



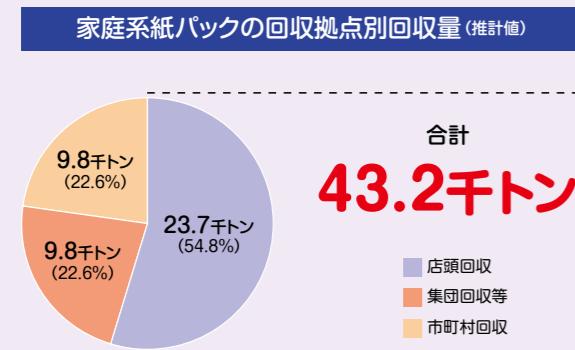
小売事業者のリサイクル状況

スーパーマーケットなどの
店頭回収ボックスで多くの紙パックが
回収されています。

家庭からの紙パック回収の50%以上を占めているのが
スーパーマーケットなどの店頭に設置された回収ボックス
からの回収です。

店頭回収の調査は、生活協同組合やスーパーマーケット各社の公表データ、および独自アンケート調査で行っています。2024年度におけるこれらの合計値は23.7千トンで、前年度より1.0千トン減少しました。家庭系に占める店頭回収の比率は54.8%で、前年度から1.0ポイント低下しました。

なお、小売形態の変化に合わせて、一部のドラッグストアやコンビニエンスストアについても調査を行っています。



取り組んでいます! リサイクル

京阪百貨店守口店

(大阪府守口市)

取組事例 京阪百貨店守口店での食育イベントを通じて、容環協では紙パックのリサイクルについて啓発するとともに、同店で実施している紙パックリサイクル活動について取材を行いました。

京阪百貨店は、「すがたも心もきれいな百貨店」というブランドメッセージを掲げ、京阪沿線を中心に大阪府内5店舗で営業しています。京阪モール内の店舗を除き、京阪百貨店では資源回収ボックスを設置して紙パックなどの資源を回収しています。守口店では紙パックのほか、PETボトル、プラスチックトレー、アルミ缶、廃食用油など家庭で不要になった資源を回収しています。(注:廃食用油のみ、写真と異なる場所で回収しています)

回収ボックスは店舗の屋外に設置され、駐車場に面した市道沿いにあるため容易に見つけることができ、買い物の前後にいつでも手軽に利用できます。いつごろから活用されているのかははっきりしませんが、長年にわたり地域住民の皆さんに親しまれ、きれいに使われてきました。2024年に表面のペンキを塗りなおし、より使いやすく清潔な印象になりました。2024年度には約1.2トンの紙パックを回収し、大阪府内の古紙問屋に引き渡しました。集められた紙パックは再生紙の原料に使われます。



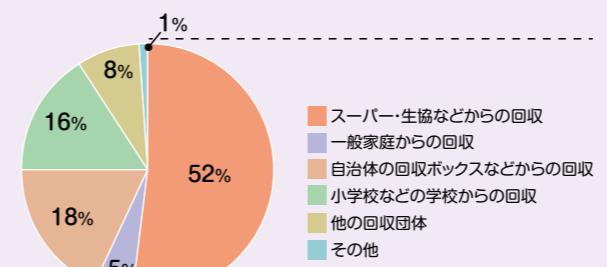
福祉施設のリサイクル状況

福祉施設の回収先は
多岐にわたっています。

福祉施設の回収先は、スーパーマーケットなどの店頭回収ボックスが多いほか、一般家庭、小学校などの学校、自治体の回収ボックスなどと多岐にわたっています。

また、多くの施設では、回収・受け入れした紙パックを主に回収業者に引き渡しています。

福祉施設の紙パック回収量に占める回収先割合



取り組んでいます! リサイクル

社会福祉法人 東京都手をつなぐ育成会 高田馬場福祉作業所

(東京都新宿区)

取組事例 社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会は、昭和36年に知的障害児の教育・福祉・労働・医療等の制度や施策の向上を願い活動していた東京都内の親の会の連合体として発足しました。各地域の親の会との連携のもと民営授産、グループホームの前身である生活寮の運営等、障害のある人に必要なサービスを制度に先駆けて展開し、現在は直営・指定管理を含め、63拠点を運営しています。

同会の事業所の一つである高田馬場福祉作業所は、区からの業務委託を受け、平成17年に事業を開始して以来、地域の中で働く喜びと、より豊かな生活を提供できるよう、利用者一人ひとりの能力や障害に応じた支援を行っています。自立を支える作業の一つとして紙パックを素材にした商品を制作しており、手書きはがきやコースター、メッセージカード、祝箸(袋部分)など、多種多様な商品を手掛けています。中でも、紙パックからパルプを取り出し小さくちぎってパックに詰めた、廃食用油を吸い取るパックが特に人気があるとのことでした。どの商品も魅力にあふれ、細部まで丁寧に作られている点が印象的でした。これらの商品は、地域のイベントや併設のカフェ「まりそる」にて販売しています。地域に根付いた活動の一つとして、今後も継続して取り組まれていくことを感じました。



市町村回収・集団回収の状況

捨てるなんてもったいない!



9割の自治体が紙パック回収に取り組んでいます。

市町村回収や集団回収で14.1千トンの紙パックが回収されました。

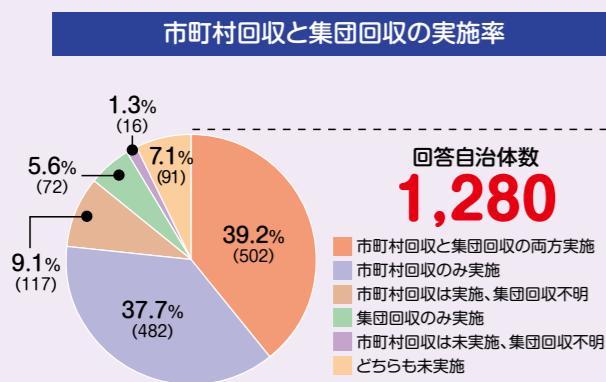
紙パックの市町村回収は分別収集方式や拠点回収方式で実施されています。

2024年度調査は全国の1,741市区町村を対象に実施し、1,280市区町村から回答を得ました。回答人口比率は日本全体の90.2%でした。

調査では、市区町村や一部事務組合などが行う収集を「市町村回収」、住民団体による自主的な回収を「集団回収」としています。

市区町村数で見たとき、市町村回収実施率と、市区町村登録の集団回収実施率は前年度とほぼ同じで、市町村回収が86.0%、集団回収実施率は50.0%^{*}でした。市町村回収と集団回収の少なくとも一方を実施しているのは91.6%で、全国の9割の自治体で紙パックの回収に取り組んでいることになります。

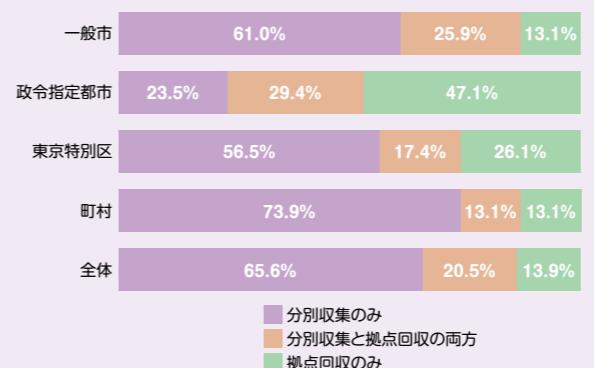
*集団回収実施率=(市町村回収と集団回収を両方実施+集団回収のみ実施)/[回答自治体数-(市町村回収実施・集団回収不明の自治体数+市町村回収未実施・集団回収不明の自治体数)]=(502+72)/(1280-(117+16))=50.0%



都市類型別の市町村回収・集団回収推計回収量

	全体	一般市	政令指定都市	東京特別区	町村
市町村回収	9.8	7.2	0.7	0.6	1.3
都市類型別回収推計量比率	100%	74%	7%	6%	13%
一人あたりの回収量(g)	78	93	24	63	122
集団回収	4.3	3.0	0.8	0.1	0.3
都市類型別回収推計量比率	100%	70%	20%	3%	7%
一人あたりの回収量(g)	34	39	30	15	28
合計	14.1	10.2	1.5	0.8	1.5
都市類型別回収推計量比率	100%	73%	11%	5%	11%
一人あたりの回収量(g)	113	132	55	79	150
都市類型別人口(百万人)	113	69	27	10	7

都市類型別・回収方式の比率



取り組んでいます! リサイクル
愛知県豊橋市

取組事例

豊橋市は、愛知県の東南端に位置しており、東を静岡県に接し、南は太平洋、西は三河湾に面した人口約36万人の中核市です。豊橋市では、牛乳パック等は古紙として地域資源回収やリサイクルステーションなどで回収しており、令和6年度の回収量は約51トンでした。また、地域資源回収の活性化やリサイクルを推進するため、小中学校PTAなどの実施団体に奨励金を交付しています。

豊橋市では、学校給食に使用する牛乳を、令和5年9月に瓶から紙パックに変更しました。これに伴い、学校現場で牛乳紙パックのリサイクルを開始し、ごみの減量化や、資源の循環利用、学校における環境教育の推進につなげました。検討段階では、学校現場における負担の増加や、乳アレルギーの児童生徒への配慮など様々な課題がありました。しかし、先進市の視察を行い、学校と教育委員会で協議を重ねた結果、現在の方法を確立することができました。リサイクルの基本的な流れは、給食を食べ終わった子どもたちが自ら紙パックを開封し、洗浄および乾燥を行います。各学校では、在籍する児童生徒数や手洗い場の状況などをふまえて、自らの学校に最も合うように工夫を凝らして実施しています。リサイクル実績は令和5年9月からの2年間で約97トンとなり、約54万個のトイレットロールヘリサイクルされました。

今後も530(ゴミゼロ)運動発祥の地として環境に配慮したまちづくりを推進していきます。

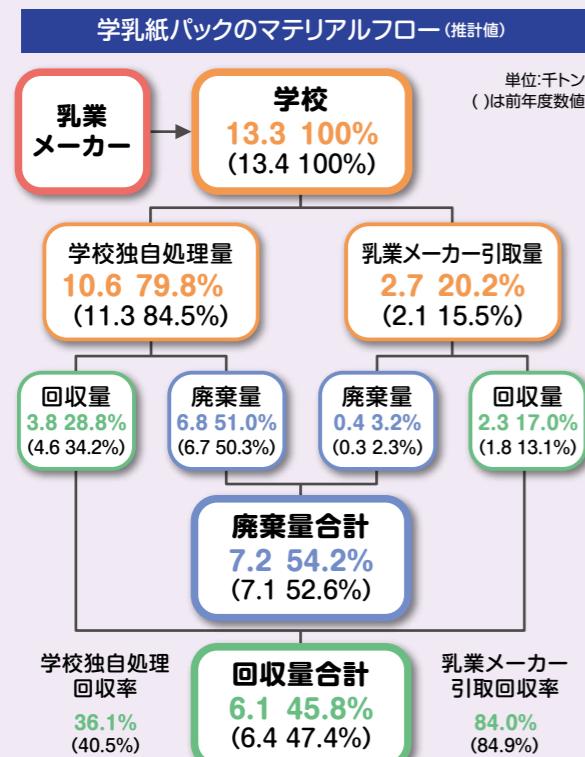


学校のリサイクル状況

学校給食用牛乳の紙パックのリサイクル率はやや低下しました。

2024年度に学校給食用牛乳として供給された紙パックの総量は13.3千トンで、前年度より0.1千トン減少しました。そのうちリサイクルのために回収された紙パックは6.1千トン、回収率は45.8%で、供給されたうちの半分以上が廃棄されている状況です。回収量と回収率はともに前年度を下回りました。学校独自処理回収率は前年度に比べて4.4ポイント低下しています。

コロナ禍で一時的に中止していたリサイクル活動を再開する動きも一部では見られていますが、引き続き可燃ごみとして処理する小学校もあり、コロナ禍前の状況にまでは戻っていないようです。学校生活での日常が戻りつつあるなかで、いかに回収を進めるかが課題になっています。また、びんから紙パックへと容器の切り替えを検討する際には、適切に回収・リサイクルされる仕組みづくりも含めて検討することが必要です。



※学校独自処理とは、乳業メーカーが引き取るのではなく、学校が直接自治体や古紙回収業者などに引き渡すことを指します。

※四捨五入しているため、合計と一致しない箇所があります。

取り組んでいます! リサイクル 神奈川県 横浜市立豊岡小学校

取組事例

横浜市立豊岡小学校はJR鶴見駅から延びる豊岡商店街を抜けてすぐのところに立地し、100年を超える歴史があります。2024年1月、環境協同組合は同校にて紙パックリサイクル向上を目的に紙すきはがきづくりを含めた出前授業を実施しました。

今回、出前授業後の活動と給食用牛乳パック(学乳パック)のリサイクル状況の確認を目的に再訪しました。

出前授業では、担当教諭と児童代表に紙すきはがきづくりを体験していただきました。その後、総合的な学習の時間を使い、家庭から持ち寄った紙パックからパルプを取り出すところから取り組み、全員が紙すきはがきづくりに挑戦し、人力によるパルプ攪拌や、アイロンではなく自然乾燥も取り入れるなど試行錯誤を重ね、はがきを使って授業参観の案内を保護者に届けることができたことが取材を通じて確認できました。

担当教諭のお話では、横浜市の小学校は少なくとも20年前から継続して学乳パックリサイクルに取り組んでおり、コロナ禍でも開くところまで児童が行き、後の作業は教職員がフォローされていたとのことです。今回は6年生を取りました。飲み終わった牛乳パックを手早く開いてカゴに集め、当番がまとめて手洗い場で押し洗いした後、CDラックを流用し、立てかけて乾燥する一連の作業は創意工夫もあり、とても洗練されていました。

取材を通じて「学び合い 高め合い まちとともに明日を拓く豊岡っ子」という学校教育目標がまさに実践されているようすを目の当たりにし、頼もしく思いました。



製紙メーカーのリサイクル状況

回収された紙パックは良質なパルプ繊維として再生されています。

取り組んでいます! リサイクル 日本製紙グループ

(東京都千代田区)

(取材先)日本製紙クレシア(株)東京工場 埼玉県草加市松江4-2-16

取組事例

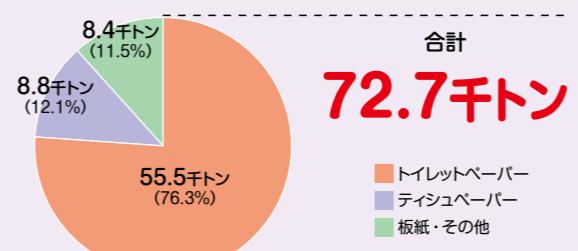
日本製紙グループは、森林資源を育成し、それを最大限に利用し様々な製品を生産しています。液体紙容器事業には1965年に進出、近年、使い捨てプラスチック削減が世界的な課題となる中、環境配慮型製品の一つとしてストローレス紙パック(School POP[®])を開発し、全国で採用が拡大しています。

紙製品は、従来より再生紙や新聞紙、段ボールなどにリサイクルされていますが、紙パックは、特に高品質なバージンパルプを用いていることから、市場で回収される紙パック以外に製造工程で発生する工程損紙を日本製紙クレシア東京工場で、「scottie[®]」をはじめとするティッシュペーパーやトイレットロールの原料用再生パルプとしてグループ全体で有効利用しています。付随して発生するポリエチレンフィルムも、RPF(固体燃料)に再生。ボイラー燃料として再利用し、無駄のないリサイクルを行っています。

また、日本製紙クレシアは2024年より埼玉県草加市内でティッシュ空き箱リサイクル実証実験を開始、回収空き箱をグループ内で段ボール原料として再利用しています。グループ会社のシナジーを最大限に活用し、日本製紙グループの掲げる、森林資源の循環、木質資源の循環、積極的な製品リサイクルの3つの循環の更なる拡大にこれからも積極的に取り組んでいきます。



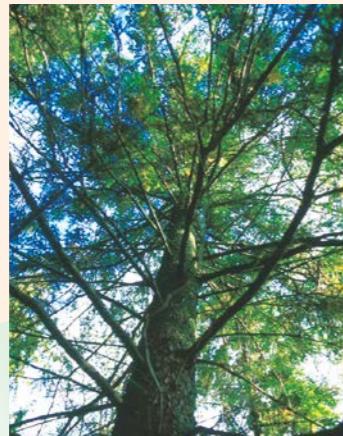
リサイクル製品への利用状況





そだてる

管理された健康な森は、大気中の二酸化炭素をよく取り込み、酸素を排出します。



森林のライフサイクル

50~100年のサイクル

紙パックの原料は枯渇しません。

紙パックの原料となるのは、北米や北欧の主に針葉樹です。これらの森林は、森林認証制度に基づいて管理され、伐採、幼苗の植え付け、育成が計画的に行われています。北米の針葉樹は約50~80年、北欧では約70~100年、間伐などをして管理、育成されます。

うえる



母木から種子を探り、幼苗生育場で大量に育て、伐採した土地に計画的に植え付けています。



つかう 木はムダなく使われます。

伐採された木は、主として建材や家具として利用されます。間伐材の細いものや建材の端材、枝をチップにして、紙の原料として利用します。針葉樹は繊維が長く、紙パックの加工や強度保持に適しています。



リサイクル製品に



飲み終わった紙パックは
上質な資源。
リサイクル製品に生まれ変わります。

再生紙 メーカー

ラミネート部分を取り除き、原紙部分を再溶解します。この時インクの残りなどを除いて、きれいなパルプに作り上げて、トイレットペーパーなどのリサイクル製品にします。



紙パック

紙パックとは、牛乳容器、乳飲料容器、ジュースなどの容器で内側にアルミのないものをいいます。1000mlの他に500ml、200mlなどの容器も集められています。

紙パックは環境負荷の少ない容器*

1000mlの紙パック1枚当たりのCO₂排出量は、32.4gと環境負荷の少ない容器です。

1000mlの紙パック1枚のリサイクルは、CO₂排出量23.4gの削減につながります。

*出典は環境省請負調査、(財)政策科学研究所「平成16年度容器包装ライフ・サイクル・アセスメントに係る調査事業 報告書」

回収業者・古紙問屋

紙パックを選別して、再生紙メーカーに輸送します。



紙パックのリサイクル



回収

回収方法には、スーパーなどの店頭回収、市町村回収、市民団体などによる集団回収や学校などでの回収があります。



洗って
開いて



乾かして



リサイクルされる工場(工程)が違うんです

あゆみ

●全国牛乳容器環境協議会のあゆみ ■全国牛乳パックの再利用を考える連絡会のあゆみ ★連携強化活動

年度	あゆみ	関連法規の動き
1984年	■もののたいせつさを子どもたちに伝えたいと山梨県の主婦グループが牛乳パックの再利用運動を開始	
1985年	■「全国牛乳パックの再利用を考える連絡会」発足(1985年) ●「全国牛乳容器環境協議会」設立(1992年) ■「牛乳パック再利用マーク」決定(1992年)	●環境基本法制定(1993年)
1993年	林野庁主催「森林の市」に出展(1993年より2008年まで毎年出展)	
1995年	●「飲料用紙容器(紙パック)リサイクルの現状と動向に関する基本調査」開始	●容器包装リサイクル法制定・施行
1996年	●「飲料用紙容器リサイクル協議会」発足	
1997年	■牛乳パック回収システム全国事例調査の実施 ●学校給食用牛乳パックのリサイクル推進モデル事業を開始(北海道)	●容器包装リサイクル法本格施行
1998年	■学校給食用牛乳パック等の回収・再商品化システム構築のための実験プロジェクトの実施(福岡、兵庫) ■飲料用紙容器の回収促進のための懇親会の開催(開催場所*1)	
1999年	★紙パックリサイクル促進地域会議の開催(継続開催*1)	
2000年	●紙パック識別マーク自主制定 ●飲料用紙パックのリサイクル促進意見交換会開始(継続開催)	
2001年	★牛乳パック回収拠点拡大運動の展開(回収ボックスを各地域へ提供)	●資源有効利用促進法施行
2002年	●全国牛乳容器環境協議会10周年記念シンポジウム開催 ★牛乳パック回収拠点10,000か所拡大活動開始 ●紙パックのライフサイクルアセスメント(LCA)調査開始(継続実施)	
2003年	★北米における紙パックLCA調査実施	
2004年	●環境キャンペーン開始(毎年の環境月間、3R月間に実施) ★紙パックリサイクル講習会の開催(継続実施*2) ●国内最大級の環境関連展示会「エコプロダクツ2004」出展(毎年継続出展)	
2005年	●紙パックの回収率目標2010年度50%以上を設定 ●容器包装の3R推進のための自主行動計画を公表(飲料用紙容器リサイクル協議会) ★子ども向け環境教育用ホームページ「牛乳パックン探検隊」開設 ★北米における紙パックLCA調査実施	
2006年	■全国パック連20周年記念集会	●改正容器包装リサイクル法公布
2007年	●「プラン2010飲料用紙パックリサイクル行動計画ー回収率50%に向けてー」策定・発刊 ●環境月間の主要行事「エコライフ・フェア2007」に出展(毎年継続出展) ■「環の縁結びフォーラムー全国パック連情報交流会ー」協賛(毎年継続開催) ★北米における紙パックLCA調査実施 ★牛乳パックリサイクル出前授業開始(継続実施*3) ★牛乳パック回収拠点拡大運動のさらなる展開(20,000か所目標)	
2008年	●洞爺湖サミット記念環境総合展2008出展 ★飲料用紙容器へのCTMP採用問題対応会議	●改正容器包装リサイクル法完全施行
2009年	★書籍「紙パック宣言」出版	
2010年	★DVD「牛乳パックン探検隊」制作 ★第1回「日韓乳加工産業環境経営フォーラム」(韓国ソウル開催)	
2011年	★冊子「紙パックリサイクルほんとのはなし」発行 ★紙パックリサイクル韓国出前授業指導者講習会開催(韓国) ★回収ボックス配布20,000か所達成 ●「プラン2015飲料用紙パックリサイクル行動計画」策定・発刊 ●容器包装の3R推進のための第二次自主行動計画を公表(飲料用紙容器リサイクル協議会) ★第2回「日韓乳加工産業環境経営フォーラム」(大阪開催) ■「牛乳パック再利用マーク普及促進協議会」設立	

年度	あゆみ	関連法規の動き
2012年	●容環協運営新組織発足(総務・支部組織・広報・イベント委員会) ★第3回「日韓乳加工産業環境経営フォーラム」(韓国慶州開催) ★北欧における紙パックLCA調査実施	
2013年	●容環協創立20周年記念シンポジウム開催 ★冊子「もったいないものがたり」発行	●改正容器包装リサイクル法見直し審議開始
2014年	●紙パック組成分析調査(松戸市) ●紙パック組成分析調査(町田市)	
2015年	★冊子「紙パックリサイクル全国20事例集第4集」発行 ★「紙パックリサイクルに関わる製紙メーカー意見交換会」開催(毎年継続開催) ●「プラン2020飲料用紙パックリサイクル行動計画」策定・発刊	
2016年	●容器包装3Rのための第三次自主行動計画を公表(飲料用紙容器リサイクル協議会) ★北米における紙パックLCA調査・紙パックリサイクル実態視察 ★リーフレット「ひと目でわかる 紙パックリサイクルほんとのはなし」発行	●改正容器包装リサイクル法見直し審議終了
2017年	●都営バス広告を実施(牛乳パックンバス) ★冊子「大人も子どもも 牛乳パックで作る小物リサイクル工作室」発行	
2018年	●燃やせるごみ専用袋の外装に広告掲載(町田市) ●AR(拡張現実)を利用した啓発実施	
2019年	★欧州視察(サーニュラーエコノミーとEUIにおける紙パックリサイクルの実態調査) ●容環新規イベントへの出展(川崎市エコ暮らしフェア、八千代どーんと祭) ●紙パック組成分析調査(富士市) ●燃やせるごみ専用袋の外装に広告掲載(三鷹市) ★冊子「学校給食用牛乳パックリサイクルの手引き」発行 ■「環の縁結びフォーラムー紙パックリサイクル循環システムの現状と今後ー」 ■商業施設でワークショップ開催(ライフハ戸ノ里店(東大阪市))	
2020年	★マシンガンズ 滝沢秀一氏(環境省サステナビリティ広報大使)による啓発動画作成 ●「エコプロOnline2020／エコスタイルーム」「エコライフ・フェア2020 Online」に出演 ●リサイクル促進意見交換会をリモートで開催	●改正容器包装リサイクル法施行(レジ袋が有料化)
2021年	●「プラン2025飲料用紙パックリサイクル行動計画」策定・発刊 ●容器包装3Rのための自主行動計画2025を公表(飲料用紙容器リサイクル協議会) ★川崎市環境局・市民団体との協働で、市内の学乳パックリサイクル推進活動を本格的に開始 ●燃やせるごみ専用袋の外装に広告掲載(八王子市) ●紙パックのラミネート樹脂リサイクルの高度化に向けた取組みを開始	●プラスチック資源循環促進法が成立(2022年4月より施行)
2022年	●「紙パックで地球にやさしくNOTEBOOK」、冊子「地球にやさしく紙パックのリサイクル」発行 ●WebやSNSを活用したタイアップ広告を開始 ★飲食産業における紙パック回収率の向上に向けてSRAジャパンと連携した取組みを開始	
2023年	●冊子「知ってほしい紙パックとリサイクル」発行 ★北米視察(採種園、森林管理施設、原紙メーカー、リサイクル施設など) ★コロナウイルスの感染症分類変更に伴い、自治体や他団体と連携したイベントを再開・強化	
2024年	●飲料用紙パック回収ボックスのデザインを更新 ●燃やせるごみ専用袋に紙パックリサイクルの啓発広告を掲載(帯広市、羽村市、逗子市、犬山市)	●再資源化事業高度化法公布
2025年	●冊子「学校給食用牛乳パックリサイクルの手引き」改訂・発行 ●DVD「牛乳パックン探検隊」改訂・発行 ●燃やせるごみ専用袋に紙パックリサイクルの啓発広告を掲載(帯広市、三鷹市、八王子市、羽村市、茅ヶ崎市、逗子市、犬山市) ●「SDGs Week EXPO 2025／エコプロ2025」出展 ★「紙パックリサイクル促進地域会議 in 関西」開催 ★第25回「牛乳パックで遊ぶ学ぶコンクール」協賛(2011年より継続) ★SRAジャパンと連携した飲食産業における紙パック回収の取組みを継続(関東、東海、近畿)	●資源有効利用促進法改正 ●GX推進法改正



乳業メーカーと紙容器メーカーが協力し、牛乳などの紙容器に関わるリサイクルと環境保全に取り組んでいます。

全国牛乳容器環境協議会

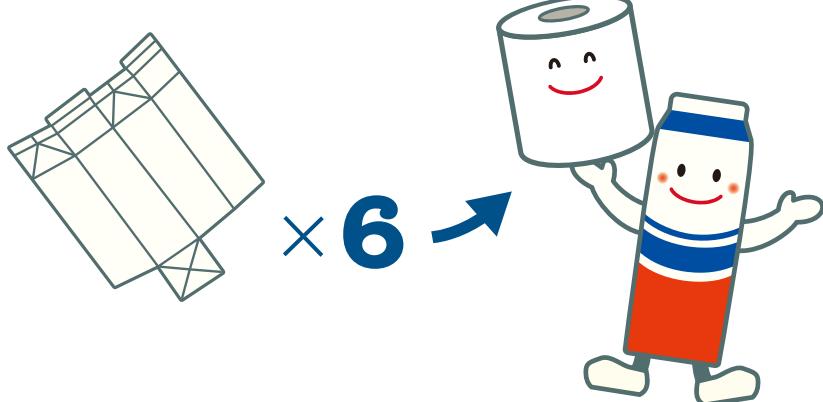
〒102-0073 東京都千代田区九段北1-14-19（乳業会館）

TEL 03-3264-3903 FAX 03-3261-9176

<https://www.yokankyo.jp>



飲み終わったら 洗って 開いて 乾かして
リサイクルありがとう



1000mlの紙パック6枚は
トイレットペーパー1個分のパルプに相当します



紙パックの回収にご協力いただいている教育機関、行政機関、団体、企業のみなさまへ

学校、公共施設、福祉施設、店頭などへの回収ボックス設置にご協力いただくとともに、安定的、定期的に回収できるシステムづくりをお願い申し上げます。回収した紙パックの引渡先などが判らない時には、地元自治体の行政窓口にお問い合わせください。その他ご不明な点があれば、当協議会までご連絡ください。

お問い合わせ先

全国牛乳容器環境協議会

Email : info@yokankyo.jp